

令和8年度第1回あきる野市生涯学習推進市民会議 議事録

日 時	令和8年8月19日（水）午後7時から午後9時15分まで
会 場	あきる野市役所5階 505会議室
出席者	澤利夫、遠藤隆一、持田晃子、渡辺昌明、海老沢治美、時計祐司
事務局	生涯学習担当部長、生涯学習推進課

1 開会（生涯学習推進課長）

委嘱書交付：令和8年7月15日から令和11年7月14日までの3年間を委嘱期間とする。

2 挨拶（生涯学習担当部長）

3 委員長・副委員長の選出

あきる野市生涯学習推進市民会議設置要綱第5条の規定により、委員の中から互選を行う。

委員から特段意見が出なかったため、事務局から委員長に澤利夫委員、副委員長に遠藤隆一委員を提案し、委員全員の承認により、委員長・副委員長を決定した。

承認後、席移動を行い、委員長及び副委員長から挨拶いただく。

4 議題（設置要綱第7条第2項の規定により、議長は委員長をもって充てる。）

（1）令和7年度あきる野市生涯学習推進計画取組状況調査の評価について

資料1、資料2及び「令和7年度あきる野市生涯学習推進計画（あきる野学びプラン4）取組状況調査結果に対する質問・意見」について説明。（生涯学習係長）

発言者	発言内容
委員長	皆さんから、ご意見・質疑等を頂戴したいと思うが、事業評価、行政評価に当たっては、まずはPDCAサイクルが重要となる。事業の取組内容、変化の状況や工夫、取り組んだ結果はどうなったのか、どのような成果があったのか、目標は達成したのか、浮き彫りになった課題は何かなどである。そして、今の時代は事業評価に当たっても費用対効果も重要な評価要素になっている。そうしたことも念頭に、委員の皆さんから意見・質疑などをお願いしたい。
委員	事業名6 子どもがたくさん本を読んでほしいという思いがある。電子図書館の導入の検討を進めてもよいのではないかな。タブレット端末を用いて手軽に本を読める環境を提供できる。一方で、電子図書館導入に予算を割くと、紙の本が購入できないなどの弊害は出てくると思うが、新たな事業として検討を進めてもよいのではないかな。
委員長	課題として認識してもらえるとよい。新規事業としての予算確保ができるとうい。
事務局	図書館協議会において、導入に向けた議論があがっている。導入に当たっては費用が膨大になるので、他市の取組状況を調査し、慎重に進めていきたい。
委員	タブレット端末で電子図書を読むことが子どもたちの現状とマッチするのか疑問に思う。電子図書を取り入れることと現状が合っているのか聞きたい。

委員	電子図書は、普段本を読まない子どもが本を読んでもくれるきっかけになるかもしれないという期待はある。子どもたちの現状は、読書よりも YouTube など刺激の強いコンテンツを好む傾向がある。学校の図書室では、人気の本を借りる順番待ちがいるため、電子図書であれば同時に何人も読むことができるメリットはある。
委員	事業名 5 託児付き講座は、保育者の確保が必要になっているのか。そうであれば、ファミリー・サポート・センターの活用はできないか。
事務局	託児付き講座は、公民館事業として実施しているものであり、家庭教育がテーマの講座を展開している。保育者のリストを保管しており、講座の都度打診をしている。ファミリー・サポート・センターを活用すると、講座における託児の必要性がなくなってしまう。
委員長	各講座で1人の利用なので、需要があまりないことも伺える。費用対効果の面でも事業の再考の余地はある。O B O Gの保育士を活用する方法もある。
委員長	事業名 1 8 I T ボランティア事業によるパソコンQ & Aでは、各回2、3人程度の参加と読み取れる。この事業も費用対効果の面で再考する余地はある。
事務局	パソコン、スマートフォンなどを使いこなせるの年齢は徐々に上がってくると思う。教える側の年齢も60～70代の方で高齢の方と聞いている。
委員	スマートフォンの普及で、今後、使いこなせる方が増えてくると講座のニーズがなくなるかもしれない。
委員	事業名 2 0 ・ 2 1 外国人の日本語学習に関する問合せがないとのことだが、外国人に対する助けは今後必要とされてくるのではないか。
委員長	現在の外国人のおかれている状況は、困りごとと昔とは異なっているかもしれない。
事務局	外国人からの相談は窓口ではなく、別の方法で解決しているかもしれない。
委員	日本語学習の相談は、社会福祉協議会で対応しているようだが、学校での対応はいかがか。
委員	子どもたちは日本語学習に取り組んでいるようなので問題ないと認識している。就労目的で日本に来ている保護者については、仕事ができればいいという認識で日本語学習をしない方もいるようである。
委員長	外国人同士のコミュニティが存在しており、仲間内で問題解決しているかもしれない。
委員	事業名 4 0 秋川キララホールの改修については、今後、改修に係る費用は上がっていくと思うが、どのような計画をされているのか。
事務局	再編等に関する実施計画を策定し存続する施設として位置づけられている。どのタイミングで改修を行うか調整を行っている。
委員	老朽化等による不具合で施設が使用できなくなることによって発生するリスクを考慮して検討していただきたい。
委員長	当該施設は指定管理者が管理運営をしている。指定管理者とよく協議し、改修に向けて検討を進めていただきたい。

委員	他自治体では、行政と指定管理者との連携がとれていない施設もあると聞く。そのようなことがないよう、指定管理者と密接に連携していただき、長期にわたる不具合が発生しないよう、修繕箇所の見極めをお願いしたい。
委員	ネーミングライツ制度を導入したと思うが、命名権料はどの財源に充てられているか。
事務局	年間１００万円となっており、５年間で５００万円の財源を秋川キララホール運営管理経費に充当している。
委員	名誉顧問は海老澤敏氏だったと思うが、継続されているか。
事務局	健康上の都合により、令和６年度をもって退任された。
委員	立川市が国立音楽大学と連携して、芸術文化振興を進めている。行政と大学の両者にメリットがあると思うので、連携されてはいかがか。音楽であれば連携もしやすいと思う。
委員長	事業名５２ 公民館情報誌を発行されているが、やはり施設ごとの情報誌は必要なのか。
事務局	施設の情報誌は、来館者には手に取りやすいものと認識している。
委員長	情報誌の対象者のニーズと市民のニーズは必ずしも一致するとは限らない。費用対効果を考えなければならないこともある。
副委員長	市民が自ら出向かないと学べない、子どもの成長を心配する大人に対して講座を開きたいが、金銭面の問題から講座を開けない方と講座実施を推進するグループとのマッチングができる、といった情報を自宅で享受できたりする環境を整えていくとよい。
委員	青少年健全育成地区委員会（以下「青少健」という。）の活動は活発か。
事務局	年３回程度、各青少健の会長を委員とする青少年健全育成地区委員会連絡会を開催しており、意見交換の中で、青少健の役員や各種活動の担い手がいないという声があがっている。ＰＴＡでも同じ状況があると聞いているが、ＰＴＡ役員を担うと青少健役員を担うことにつながるという理由から敬遠されているという声も聞いている。
委員	様々な機関で担い手不足が進行している状況であると思う。
委員長	事業名６８ 補助金の交付に関する課題として、資料２に「引き続き、補助金を適正に執行することが課題」とあるが、これは課題ではないと思う。補助金交付をしてどのような成果があったのかを分析しないといけない。補助金の審議会はあるのか。
事務局	補助金に関する審議会はない。補助金交付見直しの視点での検討は企画政策課が行っている。
委員長	資料２の課題欄の表現方法は検討した方がよい。成果を反映してほしい。
委員長	事業名６６ 生涯学習コーディネーター養成講座の受講者が伸び悩んでいるとのこと、どのように取り組むのか。コーディネーターがいないと講座事業が成り立たないと思う。生涯学習コーディネーターの会は会員が何人いるのか。
事務局	コーディネーターの会は令和７年度末時点で３７人となっている。この会が

	養成講座を企画運営している。
委員長	講座実施に当たって、人員の不足があるのか。
事務局	会としては高齢化などが起因して人が減っている。新しい人材が入ってくるようにするなど、空気の入替えは必要かと思う。
委員	会にお金を支払っているのか。
事務局	業務委託として委託料を支払っている。
委員長	講師謝礼は別で支払っているのか。また、講師は誰に依頼しているのか。
事務局	講師謝礼は、市の方で予算措置し支払っている。講師は大学教授等に依頼している。
委員長	養成講座の受講動機は把握していないとのことだが、これを把握していないと受講者獲得の戦略は練れないと思う。
事務局	受講申込み時点では受講動機を聞いていないが、受講後のアンケートを実施している。
委員長	その結果で戦略は練れると思う。
委員	「生涯学習」というワード自体が抽象的であるので、そのコーディネーターと言ってもしっくりくる方は少ないと思う。分野を細分化して、例えば音楽のコーディネーターと言え、何を担うコーディネーターなのか分かりやすいのではないか。そうすれば、受講者は増えるのではないか。
委員長	生涯学習のコーディネーターは何を担うのか。
事務局	市民ふれあい塾など、総合的な分野の講座を企画運営する。
委員長	総合的な分野だと分かりづらいと思うので、分野をしばるとよいと思う。
委員長	事業名67 令和5年の文部科学省調査では、スポーツ離れが指摘されており、「面倒くさいからやらない」が3割弱、「現在、スポーツはしておらず、今後もやるつもりはない」が2割弱とスポーツに関心がない状況である。小学校や中学校でスポーツをしている子どもたちが大人になってもスポーツを続けることが大事だと思う。
委員	スポーツ指導者も高齢化が進んでいるのか。
事務局	年配の方は多いが、少しずつ入れ替えができてしていると認識している。
委員	学校では、地域のスポーツクラブが出入りしているのか。
委員	増戸小学校ではクラブ活動は行っているが、スポーツクラブは出入りしていない。クラブ活動は教員が指導している。体育が生涯学習と認識しているが、スポーツをする子としない子とで二極化している。スポーツ観戦することも勧めてはいるが、興味を示さない子もいる。
委員長	あきる野市は、スポーツと文化とではどちらに取り組む子どもが多いのか。
事務局	「スポーツと文化のまち」を掲げているのでどちらも多いとは思いますが、中学校の部活動を見るとスポーツに取り組む子どもが少し多いようには感じる。
委員	女子ソフトボールが活躍していたと思うが、現在も活躍されているか。
事務局	オールあきる野女子のことかと思う。以前指導されていた方は高齢により、現在は新しい方が指導されており、活躍されている。

(2) 生涯学習推進計画（あきる野学びプラン5）の策定について

資料4及び資料5について説明。（生涯学習係長）

発言者	発言内容
委員長	文部科学大臣が、地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について、中央教育審議会に対し2年にわたり諮問している。そろそろ答申が出そうなので、次期計画策定に影響がでるようであれば反映したほうがよい。
委員	基本理念、基本目標、基本方針は現行プランを引き継ぐとしているが、これは前のプラン（学びプランⅢ）から変更がないことになる。15年ほど変わらないことになるが、そろそろ変更してもよいのではないか。大きな方針は引き継ぐとしても、変化を見せること、市が力を入れていく分野を示すと市民が分かりやすいと思う。
委員	総合計画との兼ね合いもあると思うが、あきる野市は芸術文化振興や都心にはない自然が武器であると思うので、次期計画ではこれらに貢献できる内容が含まれるとよい。
委員	現行プランと比較するとスマートになった印象を受ける。その一方で、他の個別計画に生涯学習の推進を位置づけるのはよいが、理想とする市民像が薄れてしまわないか、他の計画があるから削除していいのか懸念される。
委員長	これまでの他自治体含めた生涯学習に関する計画では、全分野を網羅していないといけないという流れがあった。その上で、次期計画の整理は大胆であると思うが、他の個別計画に掲載されている事業を削除したからと言って、生涯学習推進に関わることが薄まらないようにしなければならない。基本的な理念は残していかなければならない。
副委員長	大胆な事業数の削減であると思う。削除した事業は最終的に包括しなければならないと思う。令和8年度実施の市民アンケート結果を踏まえ、進めてもらえるとよい。
委員	要点は抑えていると思う。事業数削減ですっきりしていると思う。
委員	すっきりしている印象である。あきる野市では、子どもが音楽やスポーツによく関わっていると思う。そうした環境に対応している体系となっているように思う。
委員長	資料5は、赤字・青字で見え消して資料を作っているが、これらをなくしたほうが見やすいと思うので、事務局から委員に共有してもらいたい。
事務局	そのようにする。

(3) その他

事務局から委員に対し、意見をうかがいたい旨を発言。

発言者	発言内容
事務局	マールボロウ市との教育交流事業で受入れ家庭への支援を行う、あきる野ホストファミリークラブに対して補助金を交付するに当たり、委員からご意見をいただきたい。

委員長	事業名６８にある、あきる野市国際化推進青年の会との関係性はいかがか。
委員	教育交流事業に関わる団体はあきる野市国際化推進青年の会、あきる野ホストファミリークラブ及びあきる野国際友好クラブの３団体がある。その中で、あきる野市国際化推進青年の会は中学生海外派遣事業に会員が同行して事業の補助をしていただいたり、広報誌やＳＮＳを通じて事業の周知に協力いただいている。
委員長	あきる野国際友好クラブは支援しないのか。
事務局	広く市民に国際交流の取組を普及する目的で活動されているので、青少年健全育成活動には該当しないと考えている。
委員	補助金は今年度から交付するのか、また金額はどの程度か。
事務局	補助金は令和９年度からの交付を考えている。金額は補助団体にヒアリングを行い、検討する。
副委員長	社会教育関係団体と同様の補助金を交付するのか。
事務局	青少年健全育成団体として補助を予定しているので、別である。
事務局	あきる野国際友好クラブは国際化推進を目的とする団体であるため、その補助をするのであれば所管は企画政策課と考えている。あきる野市国際化推進青年の会、あきる野ホストファミリークラブは青少年健全育成を目的として活動する団体であるため、生涯学習推進課において補助を検討している。
委員長	補助金交付については問題ないと思うが、金額についてはよく検討されたい。

議長解任

5 その他（生涯学習推進課長）

特になし。

6 閉会（生涯学習推進課長）